

## 過大な目頭切開を戻す修正手術

石原 信浩<sup>1</sup> 上 茂<sup>2</sup> 工藤 勝秀<sup>3</sup>

Nobuhiro Ishihara<sup>1</sup> Shigeru Kami<sup>2</sup> Katsuhide Kudo<sup>3</sup>

郡山タウン形成外科クリニック<sup>1</sup> 仙台タウン形成外科クリニック<sup>2</sup> 盛岡タウン形成外科クリニック<sup>3</sup>

目頭切開は、東洋人にとって蒙古襞に対するコンプレックス解消や、二重をより平行型として目をより大きく見せるために要望の多い手術である。一方、目頭切開を受けた後に、過大な目頭の開きすぎを気にする患者は少なくない。内田法や平賀法で皮膚を切除している場合はもちろん、Z形成でも多少の余剰皮膚をトリミングすることもあり、元の目頭に戻すことは極めて困難である。本邦の古川が約二十年前に報告したV-Y法を応用した修正手術を自ら工夫して、過大な目頭切開を戻す手術を手掛けてきた。症例を供覧しながら術式のポイントを述べたい。